

（午前9時30分 開議）

○議長（土井裕美子君）皆さま、おはようございます。

ただ今の出席議員数は18人で全員であります。

○議長（土井裕美子君）これより本日の会議を開きます。

この際、報告いたします。

市長から令和2年2月28日付、橋総第500号をもって追加議案3件が提出されました。議案はお手元に配付いたしております。これを今会期中にご審議願うことといたします。

以上で報告を終わります。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（土井裕美子君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、7番 石橋さん、17番 岡さんの2人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（土井裕美子君）日程第2 一般質問を行います。今回の一般質問の通告者は15人です。

質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、15番 堀内さん。

〔15番（堀内和久君）登壇〕

○15番（堀内和久君）皆さん、おはようございます。

冒頭で少しだけ、新型コロナウイルス関連でしんどい思いをしておられる方に心よりお

見舞い申し上げます。

9年議員しているんですけども、トップバッターというのは実は初めてで、緊張にさらに緊張しております。

それと、明日3月3日、おひなさまの日ですけども、議長、誕生日おめでとうございます。

ちょっと明るい話で花を添えて、私の一般質問、スタートになるわけなんですけども、毎年、私興味があって、皆さんもそうだと思うんですけども、興味というか公務というか、仕事始め式というの、市長のお言葉を、身を引き締めるために私聞きに行くんです。同僚議員もたくさん出席してございます。

私これ、1年の抱負というか市長の思いを聞くのに一番わかりやすく行くんです。

一昨年はもっと企画立案せよ、若いやつ意見持ってこいと、こういうふうな話やったと思います。昨年は、うちとこへごますりに来てもあかんぞと、こういうふうな話。

今年は、総合政策部、ぬるい、遅い。なかなかきついなと思ったんですけど、そのほかにも、過去最高の35分ほど細かいレクチャーがありました。

これきついなと感じたんですけど、僕自身が一番よかったと思います。なぜかという、その人事をしたのは市長なんですけども、やっぱり愛情の裏返しをもって激励しているんだろうなというふうにすごく感じたので、あえてそれを言うんですけども、そもそも総合政策部、昔で言う企画部になるんですけども、名前は違うんですけど、やっぱり重要なかなめ、一番偉いというイメージがあるんですけど、かなめの部分であることに違いないと思います。

今、副市長でおられる森川企画部長も含め、いろんな歴代の企画部長には、議員の成長ということでは市政発展とともに本当にお世話になって、どえらい感謝しとるんですけども、ただ、感じるのは、ピラミッドの上におるというのではなくて、キャッチャーというか扇のかなめ的な受け皿である重要なところやということなんです、今までの人を見ていたら。

やっぱり、人事も含めて、これだけすばらしい職員さんがいてるのに、明るい市役所にまづなってほしい、若い人を育ててほしい。最近若い人の退職がちょっと多いような気がします。病院も少なくないです。教育の中は大丈夫なのか、学力はどうなのか、経済や雇用はどうか、福祉は大丈夫か、いろんなことを思います。議員18人、多分同じことを思っていると思います。

それら全てが、やっぱり職員が人の輪になってスクラム組んでやれているかということです。新しい種をまいて、決算や予算の答弁というか、私、討論するんですけども、種をまいて、花が咲いて、実がなると言ってしまっています。そういうイメージを持っています。

ひょっとしたら、ちょっと肥料不足なのかとか土壌に問題あるのかなというふうに最近ちょっとひしひし感じます。最近人事の予想が本当につかない。ついていかんと思うんですけど、結構僕は当たるので。

人材不足というのがもしあるんだとしたら、隠れている才能を見つけるチャンスであると。総合政策部には本当に頑張ってもらいたい。市政発展は総合政策部にかかっていると言っても過言ではない。

そんなんで、この間から、かつらぎ町の新しい町長が誕生したので議会に傍聴に行ってきました。そこで聞いた言葉にちょっと心を打たれたんですけども、やっぱり、自分自身

も海南の公務員出身で、若いときに副市長に言われた言葉というのが私の胸に刺ったんですけども、公務員はどんなに頑張っても褒めてくれることは少ない、裏方で心の中でガッツポーズするぐらいでよいのだと。市民のために頑張っていったら、見てくれる人は必ずいるんだと。議員も近いものも感じます。

森川副市長や久保理事のように、市民が選んだ社長を本気でしっかり支えていこうという、これが大事やということなんです。

だからこんな細かい質問になるんですけども、私流の一般質問というのが誕生しているわけで、本気でタックルでかかっていくぞというふうに見せかけて、ねちこい質問で、次の田中先生の税外債権に引き締まるような、議場を暖めるような前座として、一般質問をさせていただきます。

それでは、朗読をもって壇上からの質問とさせていただきます。二つあります。

一つ目、DMOについて。2回目なんですけども、DMOの事業内容と成果を伺います。

二つ目、ブランド推進室について。これはおわびせないかんのですけども、前に時間切れでできなかったということもありまして、もう一回耕したいと思ひまして通告させていただきました。

ブランド推進室が誕生して数年が過ぎて、チーム橋本として立ち上げ、当初の目標からきょうまでの事業内容と成果と今後の活動を伺います。

また、DMOとの関連事業と線引きについても伺いたします。

明快なご答弁をよろしく願いいたします。

○議長（土井裕美子君）15番、堀内さんの質問項目1、DMOに対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）おはようござ

います。

DMOについてお答えいたします。

一般社団法人高野山麓ツーリズムビューロー、いわゆるDMOが平成29年10月31日に設立後、高野山麓地域の体験型旅行商品の造成や視察・研修の手配のほか、市及び町からの受託事業等を行っており、本市としては事業委託及び職員の派遣という形でかかわっています。

平成30年度の委託内容は四つあり、一つ目は観光案内及び地場産品販売促進等事業、二つ目は観光プロモーション等事業、三つ目は駅前にぎわい創出事業、そして、四つ目が、かつらぎ町との共同事業である観光動態・ニーズ調査事業です。

次に、各委託業務の成果ですが、一つ目の観光案内及び地場産品販売促進等事業については、橋本駅前のはしもと広域観光案内所において、本市の観光案内、地場産品の販売を促進し、延べ4,710人の来所者がありました。

二つ目の観光プロモーション等事業は、着地型旅行商品の催行をはじめ、大阪中心地でのイベント出展、外国人向けに発行されている情報誌への広告掲載等、本市への誘客促進につながるよう、プロモーションを実施しました。

三つ目の駅前にぎわい創出事業については、本市の玄関口である橋本駅前において定期的にイベントを行うことで1,560人が訪れ、地域周遊のきっかけとして地域活性化を図りました。

最後に、かつらぎ町と共同で実施する観光動態・ニーズ調査事業ですが、本市及び本市周辺を訪れる観光客、潜在層に対し、来訪目的等を対面式及びインターネットによるアンケートにより、観光客の実態とニーズを把握しました。

委託金額の決算総額は1,379万9,979円とな

っています。

令和元年度における事業内容は、平成30年度と同様に、観光案内及び地場産品販売促進等事業、観光プロモーション等事業、地域資源周遊促進支援事業及び観光客動態・ニーズ調査事業の4事業となります。

一つ目は、はしもと広域観光案内所での観光案内及び地場産品販売促進等事業であり、当初契約額ベースで590万円としています。

二つ目は、本市の認知度向上と来ていただくことを目的とした観光プロモーション等事業で、当初契約額ベースで450万円としています。主な内容は、橋本市の観光資源を取り上げたツアーのプロモーション費用等や、英語版情報誌などのメディアに広告掲載する費用、インバウンド誘客のためのファムツアー費用です。

具体的には、参加者に、本市の歴史や地域資源を知っていただくために造成された万葉歌碑をめぐるツアーや、世界かんがい施設遺産小田井用水路をめぐる旅等に対し、この委託事業から2次交通費用などを支出しています。また、海外に向け、本市の食の魅力を発信するために、外国人向け英字雑誌「k a n s a i S c e n e」に本市特産の柿について広告記事の掲載をしました。その他、昨年11月に開催されたアジアヘラブナサミットと釣り大会において、海外から情報発信力のある人物を招聘したファムツアーを実施しました。

三つ目は、主として、鉄道利用客にお越しいただき、市内観光スポットへの周遊を促すことを目的とした地域資源周遊促進支援事業で、当初契約額ベースで230万円としています。昨年7月と9月には地域団体と連携したイベントを実施し、あわせて延べ1,300人の来場者がありました。また、市内観光スポットを周遊するクイズラリーも実施しました。

最後は、かつらぎ町と共同で実施する観光動態・ニーズ調査事業で、当初契約ベースで約206万円としています。効果的なプロモーション活動に役立てるために、主要スポットでの観光客への聞き取り調査や、潜在層に対してインターネットを利用したアンケート調査を実施するためのものです。

これら四つの事業の委託金額は、あわせて1,476万1,763円としています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん、再質問ありますか。

15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ありがとうございます。たくさんあるので、たくさん行きます。

垣根を越えて連携したDMOというのが、以前からの答弁であったんです。垣根を越えてという意味がすごくわかりやすく、その割には連携がどれだけできとるのかなと思うんですけど、きっちり部長においては日頃情報共有できとるんで、スムーズに行きたいんですけど、それと同時に、また、経済推進担当理事もいらっしゃるので、また見解もお伺いしたいと思います。

まずは、1,400万円前後の民間委託事業であるという部分だけを答えてもろうたんだと思うんですけども、職員も張りついて、お金の線引きができとるかできてないかわからぬのに、ここは答えれるけどここは答えられへんというのが当然出てくると思うんですけど、そこら辺は議長のさじ加減でとめていただいたらと思います。

一つ目、前回質問してからなんですけど、今の答弁を聞いていると、こんなことしました的なのは聞くんですけど、結局、二つ目のプロモーション実施とか、例えば、成果ってほんなら何があるんですかという話なんですけど、その点についてお伺いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）プロモーション実施の成果ということでお答えさせていただきます。

平成30年度の観光プロモーション事業委託業務は、本市の誘客増加を目的として、総事業費359万1,082円でした。うち市からの委託料が350万円でした。

取り組み内容として、広告出稿ということで、泉州・和歌山地域に2万部配布されている情報誌に、紀州へら竿等について掲載したり、英字雑誌に記事掲載を出稿をお願いしたりをしています。

その他、いろんなイベントをさせていただいているんですが、うち人件費として276万9,600円、広告宣伝費などの事業費が683万920円で、合計359万1,082円となっています。

おただしにある、かけた費用に対してどれくらい地域にお金が落ちたかという物差しを費用対効果という視点で見ますと、直接的にはツアーや物販で約10万円余りの売り上げがありました。プロモーションの効果として、来訪客の増加につながったかどうかという効果測定は難しいというふうに考えています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）明確な答弁ありがとうございます。

はかれない部分もあると思いますし、要は周りの人が感謝しておるかどうかが、またやりたいと思うかどうかということに成果というのが問われると思います。数字では出ないのわかります。

その次、三つ目なんですけども、1,560人、駅前では何かやのイベントをしたということになるんですけども、これは何回実施で何人ぐらい来たのかと。これをいつも思うんですけど、イベントの参加者というのは、私服の職員とか、桜という言い方をしたら大変失礼なので、我々議員もそうなんですけど、ここ

らをカウントせんとどれぐらい来とるんかというのが本来のお客さんやと思うんです。その点についてお伺いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）まず、駅前にぎわいパフォーマンスや物販など12回の開催がありました。

来客数の調査については、詳細なカウントはしていませんので概数となりますが、一回当たり約80人というふうに考えています。ただ、昨年2月23日に実施した分については、JRの新型車両展示会もあったということもあり、700人の実績となっています。

あと、費用対効果ということについては、こちら先ほどと同様のとおりで、確実に支出された費用に対して収益が上がったとは言いがたい状況だと思っています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ありがとうございます。

続いて四つ目、動態・ニーズ調査、この部分についてはいかがですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）動態・ニーズ調査についてですが、かつらぎ町との共同実施の事業で、橋本市が209万9,979円、かつらぎ町が89万9,991円で、あわせて299万9,970円を費用としています。夏と秋の2回、11箇所、対面調査2箇所及び留め置き調査9箇所を行っています。調査数は計497人となっています。

この額の支出内訳についてですが、人件費が59万6,160円で、データ分析の再委託料等事業費が241万円となっています。

直接に何かを生み出す事業ということではありませんので、費用対効果をはかることは難しいですが、これらの結果から見えてきたデータを施策にどのように生かしていくかが大切というふうに考えております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ありがとうございます。あとは、そういう考え方があるのであれば、何も問題ないと思います。

ただ、予算の色の部分、市が答えれるところと、今までかたくなに拒んできたところ、教えていただけなかったこと、情報公開できてなかったところ、ここが問題やということで、これから踏み込むんですけども、その辺で、サミットについてはブランド推進室についてというところで重複するので、そっちで聞きますので、サミットについては触れません。

経済推進担当理事にお伺いするんですけども、以前部長やったということで、それもあるのでもわかりやすいと思うんですけども、以前より、DMOの収支とか成果、何しているかわからへんのかという問いに対して、民間だから答えられへんということだったんです。

それもそれで一つの意見なのかなと、僕も常識知らずなので、聞いてしまって悪かったなという思いはないこともなかったんですけど、先日、同僚議員とDMOの事務所にお邪魔して尋ねたんです。早い話が、いつでもお答えできます、何やったら今からコピーしましょうかと、こう来たわけです。

これ、どういうことなんですか。どこでまっとったんですか。当時の課長と部長。課長も変わっております。それとも、DMOの事務局が手のひら返したのか。この辺について聞きたいんです。端的にお願いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）以前と方向性は変わっていないと思います。DMOとして、法人として公表する義務のある収支報告を含むDMOの事業報告というのは、これは公にしていかなきゃならないという、そういう法的義務がありますので、これはどなたが来ていただいても公開できると思います。

それ以上の詳細の部分については、これは理事長が中心としてDMOの機構の中で取り組まれておることですので、私ところからすぐに仲介してお渡しするという事は非常に難しい、DMOの了解をとってからでないと難しいと、そういうご答弁だったと記憶しております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）そのとおりの答弁でした。

理事長、DMOの了解をとってくれたのか否か、話をしたのか否かということを僕は聞いておるんです。いかがですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）DMOの所管としてシティセールス推進課が担当しておたわけなんですけど、議会議員として、市の委託されておる業務に関していろいろ審査・検査をしていくという立場で課のほうに来ていただけたら、資料のほうについては説明・報告するよという指示は、私のほうでさせていただいております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）もう結構です。時間がないので、次へ行きます。

DMOは当然、理事、社員が100万円ずつ出資して1,600万円というお金が集まっているんです。この辺についてちょっとお伺いします。

端的に聞きます。出資した人は疑問を持っております。そういううわさも飛んでいます。職員も議員も聞いておると思います。その点について、理事、いかがですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）約2年かけてDMOはいろんな取り組みをしていただいております。企画商品だけで12本ほど立ち上げて、そのうちの10本をもう既に旅行商品と

して販売しております。

そういったところも含めて、エリア内の方、ましてや理事や社員の方に、常にそういう情報が共有されていないという部分については非常に残念だということで、私のほうからDMOのほうにもお伝えさせていただきました。

その辺のことをしっかり共有しながら、修正していくところは修正していく、伸ばしていくところは伸ばしていく、淘汰するところはもう全て淘汰する、そういったご意見をいただけるような理事会であったり総会であるべきだというふうに私は考えております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ちょっとずれるんですけど、逆に言えば、何でうまいこと行けへんかわかります。

当初立ち上げのときに、当時の経済推進部長、平成29年12月の報告資料より、経済建設委員会で、ツーリズムビューロー、DMOの設立についてと、そのときの常任委員会に来ておるわけなんですけど、当時の立ち上げに対しての数字、目標数字というのが初年度で、平成29年666万円、2年度1,870万円、3年目、平成31年になるんですか、今になるのかな、2,530万円、来年、平成32年、これの目標到達点が4,370万円とあるんですけど、これについての整合性はいかがですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）当初、観光庁のほうにも提出した事業内容に関しては、そういう形で提出させていただいております。

かなり目標と随分差異が生じておるわけなんですけど、本当に2年間の間にいろいろ模索しながら取り組んできたという、そういう事実の中で、なかなかどの旅行商品に的を絞った方がいいのか、とりあえず観光資源を磨き上げていろんなことをやっていこうという部分

が、かえって集客につながっていなかったのではないかというふうに私自身は感じております。

きっちりターゲットを決めて、そのターゲットに対してニーズに即した旅行商品に限ってしっかり販売していく、そういうことによって、例えば田辺のツーリズムビューローのように、いわゆる熊野古道を歩く方を中心とした、そういうニーズがしっかり掘り起こせると思います。

今の段階ではそこまで至っていないというのは、なかなか絞り切れていなかったのではないかなという、そういう私の感じはあります。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）そうしたら、民間なので、行政と民間の線引きがどこにあるかということと、今は部長じゃないので、部長は公務員、理事とは、今年ご定年されるということで、今までいろいろお世話になったと思うんですけども、理事という観点で、特に久保理事なんかは、特に技術屋さんでいろんなことを聞いて、どうでしたやろうと話したら、臨機応変に、奈良部長とプラスアルファ、もう一個追い風吹かしたような答弁、今まで僕は、僕だけなんかもわかれへんけど、いただいています。

それと同じような方向性で、今後、経済部を推進していく中で、立ち上げがまずかったのではないか、焦ったのではないかとか、いろんなこと、もう過去の話してもしゃあないので、必要性は感じておるので、どうやっていくかということで、今の答弁やったらもうずれとるんです。

ということは、4年後がどうなるべきか、売り上げがどうなるとるか、ここの責任ということになっていくんです。僕は別に議員なので、職員に責任とらそうなんてこれぽっち

も思っていないですけど、DMOというのを立ち上げて橋本市がかじを握っとる、これも市長から手が離れていっとるんです。

ほんだら、経済推進担当理事はいろいろ、伝えてあるんや、あれしてあるんやと言いますけど、九度山町の町長、DMOに参画してくれ云々の話があったと思うんです。別に、振った振られたとか、なるなれへんは、それはいいんです。ここで言われとるんです。議事録があるんですけど。

DMOに参画しなかった理由というのは。これ議場で言うてるんですよ。事務職であったり、お金かかるけど、3年間の補助金があるけども、3年後、つまり4年目を迎えるに当たっての計画が見えない。だから、そこに本気度を感じないというふうに答えられとるんです。

このとき担当窓口になっとったのは経済推進担当理事でしょう、部長として。失礼、前課長でしょう。課長補佐が今、財政課長でおるわけでしょう。その責任というのはどこにあるんですかという話なんですよ。

読み誤っとる。向こうは読みが合うとるわけじゃないですか。橋本市の本気度がないから手つないでもらえれへんだんでしょうという話です。どうですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）観光振興というのは経済振興をしていくために非常に有効な手段だというふうな中で、この取り組みを進めてきたわけなんですけど、これは一つのまちだけではなかなか効果というのは出てこない。そういうこともあって、伊都・橋本を中心とした、それ以外の自治体もあるんですけど、そういう方々と手をとって観光資源をしっかりと認知させていこうと、そういう取り組みです。

せんだって、なかなか行政の意見が反映さ

れていないということで、高野山麓戦略会議というのを立ち上げて、1月からこの会議が実施されたんですけど、これには九度山町も参加していただいておりますし、当然、エリアの中の事業者もたくさん参加いただいております。

もうこういう方々のご意見をしっかり吸収しながら、先ほどお話しさせてもらったように、修正するところは修正していく、伸ばしていくところは伸ばしていく、そういう考えのもとで、DMOにはしっかりこの辺の会議の意見を尊重していただきたい、そういうふうに考えております。

ちなみに、私もこの戦略会議の中には所属しております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）答弁がかみ合わないの  
で単刀直入に申し上げます。これもう4年目  
になったら、3年で補助金が切れるのは、も  
うこの議場におられる皆さんご存じやと思  
います。

これを、ほんだら次、修正していく、吸収  
していくって、誰がどないかじとるんですか。  
うわさでは、理事長も変わるかもしれないと  
か、次、誰か探しとるとか、そんなの市役所  
が勝手に決めることちゃうと思うけども。

早い話が、担当理事、ブランド推進室も兼  
務して忙しいかもわからへんけど、あなた、  
理事長したらいいじゃないですか、次の。こ  
れは僕、強くこの議場で要望しておきます。  
結果は別に結構です。それぐらいのやっぱり  
本気度がなかったら立て直せれへんというこ  
と、それを議事録に残しておきたい。

最後に、経済推進部長、何うんですけども、  
僕は、DMOというのは利益がなかったもあ  
る程度辛抱せなあかん、市長が出せるとこ  
まで出すというところまで辛抱せなあかん、  
この市長でおる間は立ち上げた以上は絶対守って

いかなあかん、こう思っとるわけです。

これをどういうふうに立て直していくか。  
ノルマとかそんなんじゃないなくて、どこま  
でついていくかという関係性だけお伺いして、  
1項目の質問を終わります。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）DMOに求め  
られている役割というのは、地域の稼ぐ力を  
引き出すということであるというふうに思っ  
ています。DMOそのものが稼ぐ主体となる  
必要は求められていなくて、自治体、私たち、  
本市も含めた一定の財政支援は今後も不可欠  
であるとも言われています。

そういった中で、議員おただしの、地域の  
将来や目指すべき姿というのを、本気で戦略  
を立てて、関係自治体や事業者との連携、合  
意というところを改めて取り組んでいく必要  
があるんじゃないかなというのは、私自身考  
えています。

さまざまなご意見がDMOに対してあると  
いうことは私も把握していますが、引き続き  
精いっぱい取り組んでいきたいと思ってい  
ますので、ご理解いただきたいと思ってい  
ます。

○議長（土井裕美子君）次に、質問項目2、  
ブランド推進室に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）ブランド推進  
室についてお答えします。

はしもとブランド推進室は、平成27年4月  
に、官民が一体となって橋本市の地場産品や  
特産品などをブランド化し、全国・海外に売  
り出すことにより地域を活性化させることを  
目的に設置しています。

はしもとブランド推進室の業務は主に四つ  
あります。

一つ目は、ふるさと納税の推進です。

平成26年度の寄附実績が約600万円であっ

たものが、今年度2月17日時点で約2億3,700万円と大きく増加し、経年でさらに増加の傾向にあります。

また、返礼品の送付件数は、平成26年度で128件だったものが、今年度2月17日時点で約1万9,000件にまで増加しています。市内の農家や地元事業者が安定した売り上げを確保するとともに、はしもとブランドの認知度向上にもつながっています。

二つ目は、新商品開発の支援です。

がんばれ橋本応援補助金による新商品開発の支援は5年間で40件になります。商品企画から販路の確保に至るまでの各フェーズにおいて、関係機関、外部専門家、また、異業種とのマッチングを図りながら支援を行っています。

地域資源を活用したお土産物の開発や企業ブランドの構築、市内農産物の高付加価値化につながっています。それ以外にも、高野口パイルと他産地との連携企画など、マッチング支援も積極的に行っています。

三つ目は、販路開拓の支援です。

がんばれ橋本応援補助金による販路開拓の支援は5年間で41件になります。県や関係機関と連携し、市内事業者に対し、商談会、物産展などの情報提供を行うとともに、出展・参加を支援しています。

また、和歌山県と連携した首都圏高級外食店への食材提案や、イオングループと連携した商談会や物産展の開催、市独自でも東京日本橋で物産展の開催なども行っています。さらに、ジェトロ和歌山と連携し、平成30年度から、本市のブドウと柿をタイへ輸出しています。

これらの販路開拓の取り組みは、大手販売店や情報発信力が高い首都圏の消費者へのPRや海外販路開拓につながっています。

それ以外にも、市内外の企業や飲食店に本

市の地域資源を活用した新商品や新メニューを開発してもらうための取り組みとして、生産者と地元事業者をつなぐマッチング商談会などを行っています。

取り組みにより開発された商品等は、5年間で加工品が9件、近々の2年間で市内の飲食店メニューが2件、首都圏の飲食店メニューが6件となっています。

四つ目は、地域ブランディングによる情報発信です。

学生の視点で地域の魅力を再発見する産学官連携事業や、ブランド戦略の構築において高い専門性を有する専門家を招聘するブランドアドバイザー事業を実施しています。

今年度は、高い地域ブランド力を有する高野口パイル、紀州へら竿をテーマに、それぞれ事業を実施しました。

高野口パイルについては、モノづくり観光をテーマに、東大阪市で年間約5,000人の修学旅行生を受け入れている一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会の方を講師にお招きして、産業観光セミナーを開催しました。また、観光マーケティングを専攻する近畿大学の学生が市内でフィールドワークを行い、地域の課題抽出を行いました。

また、紀州へら竿については、紀州へら竿の里・橋本として本市がプラットフォームとしての役割を担い、日本発祥の伝統娯楽文化であるへらブナ釣りを支える関係者とともに、へらブナ釣り業界発展のため、さまざまな変化を生み出していく場として、アジアへらブナサミットを開催しました。国内大手メーカーをはじめ、中国、韓国、アメリカの関係者が約80名参加されました。

パネルディスカッションを通して、へらブナ釣り業界の課題・現状を共有するとともに、紀州製竿組合、各メーカーや海外の方とのネットワークを構築することができました。

さらに、業界初の試みとして、業界紙やテレビニュースで取り上げられ、海外の参加者が現地での動画配信を行うなど、全国・海外にははしもとブランドを発信することができました。

はしもとブランド推進室の今後の活動としては、チーム橋本として各分野の専門知識やネットワークを生かし、引き続き、ふるさと納税の返礼品を通じた地場産品の魅力発信、新商品開発や販路開拓の支援、地域ブランディングによる情報発信などを行い、はしもとブランドの認知度向上、地域経済の活性化に向けて取り組んでまいります。

次に、DMO等連携事業の線引きについてお答えします。

はしもとブランド推進室とDMOとの連携は、四つ目の地域ブランディングによる情報発信事業を中心に行っており、はしもとブランド推進室では、紀州へら竿をグローバルにブランディングすることにより販売促進につなげることで、DMOでは、インバウンドを中心とした観光振興に取り組み、地域内の消費増につなげることを目的としています。

このことから、はしもとブランド推進室の役割としては、地域の魅力づくりに向けた計画の立案と調整などを担っており、また、その一方でDMOは、効果的なプロモーションを打ち出すためのマーケティングであったり、宿泊、食事、二次交通の手配、体験などの観光コンテンツの構築や、磨き上げまでのエリアマネジメントの役割を担っています。

それぞれの組織が力を発揮できるような連携体制を構築しながら、事業を進めてまいりたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん、再質問ありますか。

15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）長い文章、ありがとう

ございます。早い話が、私も悪いんですけども、担当課と議論できていけませんので欲しい答弁ではないということ、まず冒頭で申し上げておきます。

役所の中の判こについて、回って、これでいいという、議場に來るとる分やと思うんですけど、何の意味も持たない、僕の時間が減っただけということになります。

やっぱり、ちゃんと担当課へ出向いて議論しないとだめですね。時間が1時間しかない、10分ぐらい返してほしいなと思います。ちょっと急いで走ります。

まず、ブランド推進室は何人おられますか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）合計8人です。内訳を言わせていただきますと、室長が1名、理事が兼務しています。正規職員が4名、臨時職員1名、JA職員1名、また、商工会議所の職員が週に1回1名、ブランド推進室に出勤しています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）立ち上げから3年たっています。3年、4年か。3年ぐらいの時間がたたないと、成果というのはなかなかわからへんというような感じがありましたので、前回質問して今回になつとるんです。

まだ全て理解しているわけではない部分もあるんですけども、まずは初代室長、県職で真摯で立ち上げのとき、本当に僕らも地元川南の農業に携わったこととか、大変お世話になりました。素晴らしい方でした。地域に触れ合おうとする、そういうふうな好感を持っておりました。業務説明もよかった。

ここから少し再質問です。

ブランド推進室を高野口の場所にということは非効率ではないのかというのをまず思うんですけども、この前、2階の奥、ちょこちょこ行くんですけど、もっと見える化はでき

ないのかというのを思うんですけど、いかがですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）5年前に、この地場産業振興センター、いわゆる立ち寄りどころの2階に、民間と行政が一体となった拠点をということで、なおかつ、はしもとブランド推進室を立ち上げて、全国・海外へ売り出していくという方針のもと、高野口に設置されたものだと思います。

非効率であったかということについては、確かに、経済推進部全体として連携する上において、市の業務をいろいろ、伝票一つにしても取り扱うにしても非効率ではあったかもしれませんが、個々職員が意欲的に業務をこれまで担ってきたんじゃないかなと私自身は思っています。

見える化についても、不十分であるところもあったかもしれませんが、可能な限り努力をしてきたというふうに思っています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）気持ちはわかります。わかりますけど、質問します。

答弁全体で、今しゃべってくれとった全体の答弁で、金の使い方というのは別として、ふるさと納税なんかは僕は思い入れがあって、JTBを連れてきて、当時、それこそ市長の本気度がうかがえたところ、よしやろうやないかと、民間のこれでやろうやないかと言われたときは、実はしびれるぐらいうれしくて、その見返りとして、今、職員の努力、販路開拓とかもいろいろあると思うんですけど、農業者がまず喜んだら、返礼品を出せるということ。

市長の選択はこれ間違いではなかった。合うとった。この政策決定というのは合うとった。ふるさと納税の使い道というのは、政策においてちょっとようわかれへんときがあり

ますけども、お金が入るということに関しては市長は正解やった、僕はうれしかったということ、これ添えておきたい。

実際、DMO、経済部、シティ、農林振興、連携部分というのはものすごい多いんですけど、一つわかれへんのが、ブランド推進室というのがもともとあったオリジナルの事業、恋学文とかオムレツってどこ行ったんという話です。よその事業をつまみに行っとるんじゃないと。もともとの事業は何があるんですか、言うてください。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）はしもとブランド推進室設置当時の業務として残っている、現在も実施しているというところですが、壇上でも答えさせていただきました地域産品のブランド推進、それから海外販路開拓支援、それからふるさと応援寄附金、産業振興基金業務が設立した当時から現在も実施している事業だというふうに思います。

数字でお答えするのは難しいんですが、あえて言わせていただきますと、四つということになります。

なお、今も和歌山県やJ A、橋本商工会議所、高野口商工会の連携については、当時からもう必須業務であるということで、オリジナルな事業ということには含めておりません。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ありがとうございます。時間ないので飛ばします。答弁欲しいので。

理事、お待たせしました。

場所云々というのはこれからみんなで決めていくなり、現状維持でも全然結構です。機能しているのであれば。

ただ、理事は室長を兼務して、もう県職が来ていないブランド推進室、チーム橋本、これ何なんやろと、先に僕は思うんですけども、理事、僕は役所はほぼ毎日来るんですけど、

理事は本庁にいますよね。これブランド推進室って、ミーティングとかいろいろ政策、課内の会議、室内の会議、これあると思うんですけど、ICTでもあるんですか。室長は何回ぐらい出向いとるんですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）私、本当に理事と兼務しておりますので、直接、ブランド推進室へ入って、常に業務に従事する部分については、非常に物理的に困難になっております。

ただ、ほぼ毎日、室長補佐が来ていただいて情報共有をするとともに、多くの業務の相談に対して、時には修正を指示して、関係者への調整などを自らしてきております。

担当職員からも多くの事業に関して、進めていく上で相談が常にありまして、そういったことに対しても、この本庁のほうで対応させていただいておるところでございます。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）何回行っとなですか。年間何回行っとなですか。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）回数については特に把握していないんですが、どうしても行かねばならない時点では行かせていただいておりますというふうに私は理解しております。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）年始、年末のあいさつ込みで5、6回程度ちゃうんですか、実際の話。ブランド推進室の職員はほぼ毎日、決裁もらいに、いろいろ業務命令もらいに、本庁でよく出会います。これを非効率と言わんと何と言う。

決算でも言うたけども、駐車場ない、車ないと、非効率極まりないと思います。ICTでつながっているのかなと、笑ってくるよう

な話です。それでチーム橋本、連携とれとる。

もう一つ、つけ加えさせてもらいます。ちょっとひどい話ですけど、ブランド推進課へ行ったらもう、まず暗い、対応が悪い。前はソファが手前にあったけども、奥に行かれて、何か入るなということか、君たちはと。

どこが開かれたチーム橋本やと。地元と協議する。笑います、はっきり言うて。市長はそんなん望んどるはずないと思います。もっと見える化で、あそこに置くことでもっと交流あって。

1階はもちろん明るいです。おいちゃん、おばちゃんら来て、コーヒー100円で飲んで。ああいうのの延長に上に置いて、高野口を活性化するために、ブランド推進室を費用対効果は別にして置いたのではないかなというのは僕、推測されます。

目的はいろいろ政治家なのであると思うので、そこまで僕は追及するつもりはないし、否定しておるわけでもないけども、非効率やったら戻したほうがいいんじゃないですか。県職の人もおれへんのに、チーム橋本、理事が兼務できると。年に何回行っとなか。こんなん、おかしいですよ。こんな会議、ミーティングなんか意味をなさへん。

その結果、ちょっと時間ないので飛んで飛んで行くんですけども、DMOの係部分の、サミットって答弁もろうたのでサミットの重箱の隅々を聞くんですけども、まず、僕、一番かちんと来とるのが、副議長もおられるし、地元にも県会議員がおられるんですけども、地元議員の協力なくしてこれはなし得ないと、地雷を踏んでくるわけですね。ばかにしとんかと。

サミットというのは初めてのもくろみで、産業振興基金を使うて、みんなでやっぺいこうと。僕、一般参加したんです。組合長から申し込み用紙いただいて。

楽しかったです。1日目はメリット、デメリット、ようわかりました。やってよかったです。市長、すばらしいと思う。

でも、この中身、会議もきっちりできていない、行け行けどんどん。けつ拭いとるのは皆。失礼、言葉が悪かったら訂正します。バックを支えとる、裏方やとるのは、結局、管理職がボランティアで来とるのか代休をもらえとるのか、そんなことはわからん。これ担当者、どうなとるんやと。ふざけるなという話ですよ。僕の地元でなかったら見逃したるよと。

でも、こんなやり方しとって、人の輪なんかできると思いますか。室長、お答えください。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）このヘラブナサミットに関しては、当初からシティセールス推進課とブランド推進室がまとめてやってきました。DMOに関しては、ほとんどの部分、このシティセールス推進課のプロモーション業務委託費の中で受託事業としてかかわってきたわけなんですけど、あくまでもブランド推進室は、へら竿の需要が国内で右肩下がりで、どんどんどん下がりていってある中で、趣味も多様化してきて、将来性が非常に厳しいという判断の中で、今、にわかにか中国を中心としたアジア圏でヘラブナ釣り、紀州のへら竿が人気上昇してきておる、そういう中で、より大きなマーケットで世界ブランディングをするために、ブランド推進室がこのサミットに関しては中心となって積極的な事務をやってきております。

それに加えて、シティセールス推進課とDMOに関しては、中国人をターゲットにしたニーズをヘラブナというところで捉えて、将来のインバウンド観光につなげていって、地元の消費に促していく、そういう期待感を持

って、今年度はファムツアーという形で、主要な外国の方を招いて、しっかりインフルエンサーとかの方にアピールしていただきました。

ですから、来年度に関してはファムツアーではなくして、実際、お客さんとして来ていただいてお金を落とすしていく、そういう仕組みにつながっていくように、今後努力していきたいと思っています。

当日、サミットもそうですし、翌日の釣り大会も、職員が積極的に、経済推進部を中心にしかかわっていただいたんですけど、これはもう地域を挙げて地元の活性化につなげていく必要があるということと、プロモーション業務委託の部分だけの予算であれば、なかなかそれを実施していただけないということから、職員もできるだけ出るようにしたと、そういう経緯でございます。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）そんな夢物語どうでもいいです。僕が聞いとるのは、地元議員の協力なくしてどうのこうのというのは、何の連絡があったのかということと、骨格であるチームワークがとれていないのに、そんな夢を語れるのかということを知りたいんです。

これ地元議員、僕ら、ほんなら何の協力依頼で何を求めたんですか。それだけ言うつもりです。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）地元議員への、協力について、依頼したか、していないかということでお答えさせていただきますと、依頼はできていません。

議員は、開催の準備をしている最中にご心配いただいて、ブランド推進室に来ていただいたということもお聞きしましたが、その時点で詳細な説明をできずに帰っていただいたということがあったというふうに聞いており

ます。

私自身も全体を把握していく中で、今言ったようなことをその時点では把握できておりませんでしたので、ご迷惑をおかけしたというふうに思っています。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）もう反省してください。部下に対してちゃんと言うてください。ええとこぼっかりとってするんじゃないくて、もっと横と連携してください。

もう一步踏み込んでいきます。時間ないので飛ばします。

担当職員、どっちがどっかわからないですけど、あなたの部下で言うところの室長補佐に当たる人、答弁上手な人ですよ。あの人は数日してから、部長にも相談行って何やかんやしとると思うんですけど、指導やミーティングというのは結局、部長が最後、バックアップしたという形なんですけど、きっちりみんなにできてない、裏方のスタッフにちゃんとできてないということです。

だから、やっぱり、ええことするんやったらきっちり骨格をつくれということ、まず理解していただきたい。ここについては答弁は結構です。

アンケートというのもありました。時間がないので、アンケートのデメリットの部分をちゃんと拾い出して、ちゃんと精査して次につなげてください。今回、当初予算で上がってきたら。何に使うとるかわからへんようなお金なんか議決できないでしょう。4年目どないなるかわかれへんというのものもあるし、線引きできていないし。

産業振興基金というのはそもそも、前回の補正のときに質疑したときに、竹竿を売り出すに当たってというふうな意味合いで捉えとったから気持ちよく賛成したんですけど、一応、産業振興基金というのは、これは市が市

に使えるという解釈でよろしいんですね、そこは。それはそれでいいです。後につながるので一言言うときます。

このサミットの予算とか、あと、ぎりぎりまでやった対話とか、チームワークがあった、なかったはいいです。

この内訳に突っ込むんですけど、会場費、通訳費、アドバイザー費というのは、これは理解します。送迎というのが一言出とるんです。送迎というのはこれ何か何回も関空に行つとるみたいやけど、これ市の職員が迎えに行くということはできなかったんですか。お答えください。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）この送迎費というのは、中国、韓国の方のファムツアーに対して関空までお迎えに行かせていただいて、こちらの橋本市のほうへ来ていただく、また送るとい、観光プロモーションのファムツアーとして実施した予算でございます。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君）ほな、それは必要やったということで結構です。

ここからなんです。細かいこと言うて悪いんですけど、隠れ谷池というのは本来、民間の試験池なのか、どこに位置づけしとるのかは別として、これ入場料というのがありますよね。僕らはこれ一般参加で3,000円払って、弁当代が1,000円ぐらいで、入場料が多分1,000円か1,500円で、あと貸し出しなのかイベント参加費なのか、それはわかりませんが、何千万円の予算に対して何千円の質問して悪いんですけど、ここが僕、一番かちんと来ているんです。

隠れ谷池に予算で3万5,000円と計上、書いてあるんですけど、これほんまに3万5,000円支払われたんですか。お願いします。

○議長（土井裕美子君）経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君） 今回のサミットの後の釣り大会に関しては、これはDMOが主体となって、後援者として紀州製竿組合がかかわっております。

釣り客に対して、参加費、通常の釣り堀使用料に関してはDMOから製竿組合のほうにお支払いさせていただいたというふうに確認しております。

○議長（土井裕美子君） 15番 堀内さん。

○15番（堀内和久君） この計画の3万5,000円と領収書の金額は多分違うと思います。

議長の許可いただいていないのでカメラに映すまでもないんですけど、大きい小さいの金額とちゃうんです。これは公金でやっという、ずさんな会計しとる。ほんで、DMO、DMOと、ここの都合の悪いところはDMOへ行きますけど、DMOの理事長は当時言いました。僕に言うた。このDMOのこの担当は、地域おこし協力隊の部分のシティセールスで雇っていただいとる部分の彼がやっという。理事長はそない経済推進部長の前で言うたんです。

もう一個進みます。さらに腹立つこと。これはもう絶対納得行けへんのですけど、お弁当を注文していますよね。前回の議会の、僕、初日一般質問で、3番目か4番目のときに、理事、僕とこへ寄って来て言いましたよね。弁当取りに行かしといたのと。そうじゃないでしょう。

これ産業振興基金も皆絡んでの税金、公金で買うとる弁当、スタッフ弁当でしょう。これ放りっ放しといて申しわけないと思えへんのかなと思う。これが一番かちんときた。

職員に取りに行かしたのでじゃないでしょう。その辺のチームワークと謙虚さが無いのに、観光なんかどういっておもてなしの精神でするのかということ、この一般質問で僕は訴えとるんです。答弁できないでしょう。

これはDMOがやったことなんですか。DMOは怒りますよ。あなた行って建て直したらええのとちやいますか。

もう時間ないので、別にもうちょっと、市長が入ってきたら怖いなど思いながら、びくびくしながら一般質問しとったんですけど。

僕もほんで、かみ違えとるとこもあると思います。後でまた市長室に、秘書課が入れてくれたら僕行きます。

やっぱり、ともに連携しよかと言うとる議員って、18人議員おられたら、それぞれ市長支えらなあかんと思うとる部分もあれば、これはあかん、とめやんなあかん部分もあるという解釈で市行政って動いとると、3期しとる僕は解釈しとるんです。副市長や久保理事のように賢くないので、気持ちで動くタイプなので、だから、熱意にはついていこうと思うんです。

そういうことを考えたときに、やっぱりまじかっただけというところは謙虚に賛成できなかったら、そこで人間関係が終わってしまうんです。だから、部下に伝えていただきたいのはその辺なんです。

悪いのはおまえじゃなくて、やっぱり心の中でガツポーズするぐらいの職員を、各ここにおられる部長らがどれだけ育てとるかということが、橋本市の発展、平木哲朗氏を支えようということになるのと違うんですかということ、このたかだか何千円の弁当の話から聞いて欲しかったということなんです。

好き嫌いで言うとなっちゃうんです。個人的に言うたら、そうでつかと終わると思うんです。そういうことが理解できない職員は、もうちょっと話ができない。いいところもあるから、ええとこ探そうと思うんですけど、こういうとこ持とって気まずさがあるって、開けられたらあかんふたを持とるようなことで議論できないと言うんです。

時間ぎりぎりになってきたので、最後、経済推進部長、前の決算委員会で、私が就任したら建て直しますわと、こう言うてくれたと思うんです。行政側やったら時間過ぎてもしゃべれると思うので、たくさんしゃべっていただいたらいいと思うんです。僕も憎うて言うとりんどちゃうので。

河南の物事とか、僕は小さいときから隠れ谷池の真下に実家があって住んどるんです。やっぱり、思い入れのあるとこというのはよくしていただきたい。教育の一環で子どもが来るのもうれしいし、教育委員会もそれプラスになると思いますよね、隠れ谷池で釣りするというのは。

あれを地域で守っていかうということを考えて上で、建て直し、ここの部分について、経済推進部長の見解をいただいて、また後で市長室に怒られに行きますので、最後にお答えをいただいて、私の一般質問を終わります。どうぞ。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）厳しいおたしだったというふうに思います。その中でも、経済推進部として課題はたくさんあります。しかも、その課題一つ一つは連携なくしてはできないというふうに思っています。

それぞれの部署の短期的、長期的なビジョンをしっかりと個々職員が意識して、なおかつ、やらされ感というか、そういうことではなくて、もう職員が意欲的に活動的に、何よりも、議員、途中でもおたしがありました、楽しく市のために業務をやっているんだという、そういう意識を持って働ける組織にしていかなければならないというふうに私自身思っています。

この1年間、不十分な点多々あったと思うんですが、しっかりと職員を支えて取り組んでいきたいと思しますので、ご理解いただ

きたいと思います。

○議長（土井裕美子君）15番 堀内さんの一般質問は終わりました。

この際、10時50分まで休憩いたします。

（午前10時33分 休憩）

（午前10時59分 再開）

○議長（土井裕美子君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

先ほどの堀内議員の一般質問に関しまして、当局より発言の申し出がございますので、これを許します。

経済推進担当理事。

○経済推進担当理事（笠原英治君）先ほど、サミットの翌日に開かれました釣り大会におきまして、これはDMOの自主事業であるんですが、参加費を参加の方々からいただいて、その中から紀州製竿組合のほうへ隠れ谷使用料として3万5,000円、一旦お支払いさせていただいた分と、実際の製竿組合が受け取った金額に差異があるのではないかとというご質問だったと思うんですが、一旦最初、定額で参加の方から会場使用料をいただいて3万5,000円の領収を切ったわけなんです、そこから製竿組合が当日、女性の方であったり、日頃から会員として登録されておる方については幾分かの減免がありまして、その方にお一人ずつ返金されたようです。その返金されたことによって最終の実績額が変わってきておりますので、その部分で変わった金額でDMOも実績をつくっておりますし、製竿組合のほうからそういうふうな申し出があったというふうな確認がとれましたので、報告申し上げます。